

第42回 北海道中学生新人バドミントン競技選手権大会

競技・審判上の注意

I 全般的事項

- ① サービス高を1.15mに固定するルールを適用する。ポストにコート面から1.15m高さのところにテープでマーク（上端が1.15m）を付け、そのマークを基準にコート面から1.15mの高さのところに水平面をイメージし、判定をする。
- ② サービスジャッジは、団体戦、個人戦ともに決勝のみ配置する。
- ③ 試合進行は、時間短縮のため、試合が終わり次第試合のコールを行う。タイムテーブルで予定されている時間、コートの変更がありえるので放送に注意する。
- ④ 試合が連続する場合は、前の試合終了後から10分間を確保して次の試合を行う。
- ⑤ 入場について、団体戦及び個人戦ともに、プログラムで上に記載されている方が主審の左側に入る。（主審のコアシートの記載に準ずる）
- ⑥ 競技者が競技中に着用するものは、大会運営規程第23条による。色付き着衣を使用する場合は、（公財）日本バドミントン協会審査合格品を着用する。なお、ウェアからはみ出すタイプのインナー等についても審査合格品とする。
- ⑦ 着衣表示については（公財）日本バドミントン協会大会運営規程第24条による。但し、ウェアの表示、背面表示については、一部（公財）日本中学校体育連盟バドミントン競技部申し合わせ事項を加える。
- ⑧ 背面表示は、背面中央部にゼッケン（縦20cm、横30cmの大きさを基準とした白の布地で、文字の高さは各列6～10cm）を付け、四隅を留める。ゼッケンの表示は、上段に学校名（チーム名）・下段に選手名姓を明記する。背面表示がある上衣は、ゼッケンで全て覆い隠す。
- ⑨ コーチ席に入る監督、コーチ、マネージャー等は、マッチにふさわしい服装で臨むこと。公認審判員規定第5条第12項（8）によるものとする。なお、Tシャツについては、チーム名が明記されたチームTシャツ（ロングTシャツを含む）のみ認めることとする。その他のTシャツ（ロングTシャツを含む）を着用している場合は、上着を着てもらるか、着替えをお願いする場合がある。
- ⑩ 入退場および挨拶、表彰の際は、ウェア(上衣)の裾を下衣に入れる。
- ⑪ 試合中の水分補給は、基本的に主審が汗ふきタイムを認めたときに、試合進行に影響が出ないように素早く済ませる。ただし、飲み物はスクイズボトルか水筒に入れる。
- ⑫ 今大会はカゴを用意しない。タオル、スクイズボトルか水筒、滑り止めなどはまとめてバッグに入れ、コートサイド（主審側、ショートサービスラインの延長線上辺り）に置く。交換用ラケット（ケースから出しておく）は、バッグの上に置いておくことを認める。また、その他の物はコーチ席で保管する。氷のうは、保冷バッグに入れてコーチ席で保管する。床に直接置くことは認めない。
- ⑬ 競技フロア内での水分補給以外の飲食は認めない。
- ⑭ ハードタイプのクーラーボックスの持ち込みは禁止とする。
- ⑮ 審判員の判定に対して疑問があるときは、個人戦の場合は当該プレイヤー、団体戦の場合は当該プレイヤー、または監督が質問できる。（大会運営規程第6章第36条）
- ⑯ 原則、試合に負けたチームの監督、外部指導者(コーチ)、マネージャー(教員)が主審をすることになるので、試合終了後、直ちに本部席まで来ること。また、敗者選手には線審をお願いする。なお、得点係と、単の場合の線審(1名)は主管地区協会が担当する。
- ⑰ 会場内でのフラッシュやライトを点灯させての撮影、および、競技フロア内での撮影は禁止する。
- ⑱ 別紙の「レフェリー（競技役員長）から競技審判上の確認と連絡」を熟読する。

2 団体戦に関する事項

監督は、当該学校の校長・教員、中体連事務局に登録している地域クラブ活動の指導者であること。外部指導者（コーチ）は、事前に中体連事務局に登録している当該学校の校長が認めた者（地域クラブ活動においては、登録されている指導者）とする。マネージャーは当該学校の教員、地域クラブ活動の指導者または中学生のいずれかとする。

- ① 各コートの両エンドにコーチ席2席、団体戦用ベンチを設置する。ベンチに座りきれない選手は、観覧席で待機する。試合に入る、挨拶時などに合わせて競技フロアにおりてくる。
- ② 各コートのコーチ席に入れるのは、登録している（男女別）監督、マネージャー、外部指導者（コーチ）、団体戦に登録されている選手のいずれか2名までとし、必ずIDを付けることとする。インターバル中にコートでアドバイスできるのは2名までとする。
- ③ 団体戦でベンチに座ることができるのは、登録している（男女別）監督、マネージャー、外部指導者（コーチ）、選手とする。チェンジエングズの際に、ベンチの移動は認めない。
- ④ オーダー交換は、対戦相手が決まり次第、放送にて案内する。定刻（指定のあった時刻）までにオーダー用紙の提出がないときは、棄権と見なす場合がある。
- ⑤ 試合のコールがされたら直接コートに集合し、主審が来てから挨拶をする。トーナメントで上に記載されている方が主審から見て左側に入る。スコアシートの記載に準ずる）主審が来てから挨拶、マッチ前練習、試合の順で行う。
- ⑥ マッチ前練習は、初回戦のみ行うこととする。（片方が初回戦の場合は、初回戦のチームのみ行う）団体戦の挨拶が終了後、チームごとに2分間ずつ行う。（チームでの練習のため、2分間の中にレディトアッププレイを含まない）1コートのみで試合を開始する場合は、トーナメントの表記が上のチーム（スコアシートの記載が左側のチーム）から行う。両チームの練習が終了したら、各マッチの挨拶、トスをし、試合を開始する。各マッチにおいての練習は認めない。
- ⑦ 基本的に2コートを同時に使用しての並行試合を行う。進行の関係で3コート同時に試合を行うこともある。この場合は監督に確認の上で実施する。複1もしくは単が終わったら、空いたコートで複2を行う。
- ⑧ 試合の勝敗は複1・単・複2のうち、いずれか2マッチを先取したチームの勝ちとする。どちらかのチームが初回戦の場合は第2複まで行う。それ以降は（2マッチ先取）後、打ち切る。
- ⑨ マッチ前練習の練習球は、各校で準備する。

3 個人戦に関する事項

- ① 試合のコールがされたら直接コートに集合し、主審が来てから挨拶をする。トーナメントで選手番号が上に記載されている選手が主審から見て左側に入る。（スコアシートの記載に準ずる）
- ② コーチ席に座れるのは、IDが発行されている者（監督、マネージャー、外部指導者（コーチ）、保護者並びに団体戦登録選手。いずれも協会登録をされている者とする）のうち2名までとし、必ずIDを身に付ける。インターバル中にコートでアドバイスできるのは2名までとする。
- ③ IDが発行されている者であれば、他校の選手のコーチ席に入ることを、今大会のみの特例として認める。ただし、団体戦登録選手は、自校の選手の試合のみとする。
- ④ 個人戦については、マッチ前の練習は設けない。ただし、試合がコールされてから主審が来るまでの間、単の場合は対戦相手と、複はパートナー同士での練習を可とする。なお、練習球は各自で準備する。